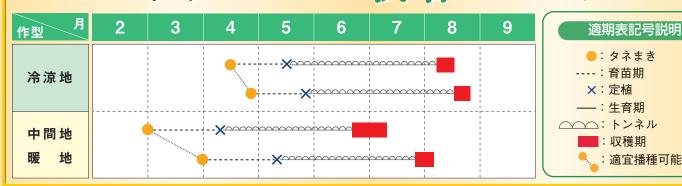
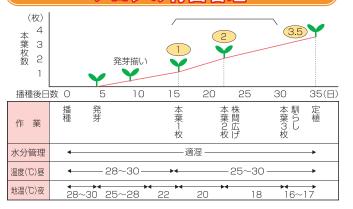
タキイのメロン栽培マニュアル



メロンの育苗管理

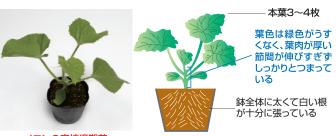


メロンの音苗

メロンの育苗期間は1カ月程度と短く、温度を確保できる場所があれ ば9~12㎝ポットにまいて育苗すると、食べてみたい品種を栽培で きます。



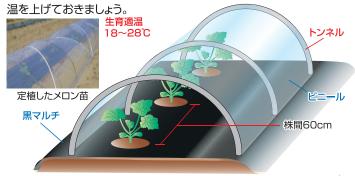
定植適期苗は…12㎝ポットの場合は育苗日数約35日、本葉3.5枚 程度が定植適期です。畑の準備が遅れて老化苗定植にならないよう 注意してください。万一、老化苗定植や定植後の環境不良などで、生 育が悪い場合には液肥や葉面散布などで草勢回復に努めます。



メロンの定植適期苗

メロンの定植

メロンは、果菜類の中でも温度管理、水分管理が難しく、品質のよい 果実を収穫するのは容易ではありません。定植時期の目安は最低気 温14℃、最低地温16~18℃以上になったころで、トンネル栽培で は4月中旬ごろからになります。活着をスムーズに行い、よい雌花を 咲かせるためにも定植2週間前にはトンネルを張り、定植後に十分地



うね幅250㎝

メロンの根は浅根性で酸素要求量が大きく、排水、通気のよい土壌 条件を好みます。土壌水分は、生育の各段階で必要量が異なり、天候 による土壌水分の変動を少なくするような栽培管理(トンネル、マル チなどを利用)を行うようにしましょう。

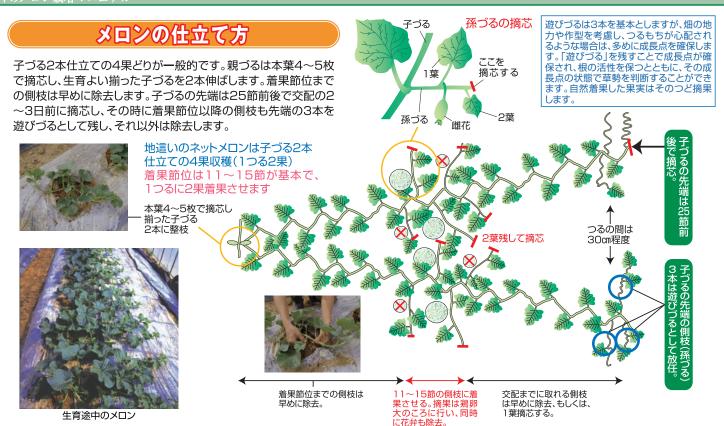
元肥の量は目安として10㎡当たり成分量で、チッソ100~ 120g、リン酸150~200g、カリ120~150gを施用し ます。元肥が多いと過繁茂になり、病虫害の発生も多く、果 実の品質が悪くなるので注意します。有用微生物入りの有機 肥料などを施用すると、根の活動が活発になり品質のよい果 実が収穫できます。

メロンの定植後の管理

定植は活着を促すため晴天の午前中に行います。メロンの仕立て方 は、家庭菜園では本葉4~5枚で親づるを摘芯し、子づる2本仕立て



た側枝を残す



メロンの交配



メロンの雌花は側枝の第1節に、雄花は主枝に着生します。ミツバチによる自然交配が多いですが、確実に着果させるためには人工交配がよいでしょう。開花の2~3日前から曇雨天が続いたり、13℃以下の低温にあったりすると、花粉の発芽や花粉管の伸長が悪くなってしまうので、15℃以上の最低気温を確保します。花粉が受精を完了するのに気温20℃で24時間くらい必要なので、受粉後の保温に努めます。

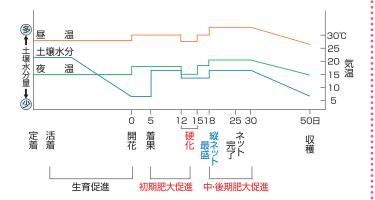
メロンの摘果

メロンの果実の肥大は、受粉後10~15日が最も盛んとなりますが、その前の受粉後7~10日の果実がピンポン球大から鶏卵大に発育したころに摘果作業を行います。

低節位着果は、小玉でへん平な果実になり、高節位着果になると大玉にはなりますが、糖度が上がりにくく長玉傾向になります。



温度と潅水



硬化期に入ると初期肥大期の温度より少し低めの管理をして果実の硬化を促進しますが、夜温が極端に下がると、果皮が白くなり、果実がしまりすぎた状態になりますので、夜間の温度管理には注意が必要です。

縦ネット発生期は潅水や朝方の蒸し込み管理は控え、大割れネットの発生を防ぎます。 (※アールスメロンをつくる時の管理方法です。 家庭菜園では、管理が難しいので参考程度にしてください)



果実がしまりすぎの場合

メロンの収穫

玉直し… 交配後15日目ごろ、果実がひび割れする前にメロンマットを敷きます。これによりネットの均一な発生が促進します。



収穫期は品種は作型によっても異なります(開花後50~60日程度)。判断する上でのポイントは、着果枝の葉枯れや果硬部へのネット上がり、花痕部のひび割れなどを参考に必ず試し割りをして、糖度の上昇を確認するだけでなく、肉質も考慮した上で適熟果収穫に努めます。

果実の風味は芳香と甘味によって作り出されます。芳香の成分は、果実内に含まれる糖が追熟によってアルコール化し、果実酸と化合してできるアルキルエステルなどによって発生します。

ネットメロンは5~10日の追熟期間が必要で、この間に肉質の軟化と芳香の高まりが頂点を迎え、食べごろとなります。

